

医心 伝心

平成27年スギ花粉症に向けて

県医理事 河合 晃充

平成26年度の富山県におけるスギ花粉飛散は県森林研究所の予想通り、ほぼ平年通りで平均値をやや下回る程度の量でした。一部の調査機関によると極端に少量である予測も出されていたため、森林研究所の予測が正確であった事となります。

県医師会でも1995年より花粉症対策委員会を組織し、ダーラム法によるスギ花粉飛散数調査、患者動向調査、患者アンケートなどを行い、医報とやまに花粉症情報掲載、新聞・テレビなどのメディアに翌日の花粉飛散予測の発信、県・富山大学・各郡市医師会に飛散状況をFAX等で報告などの情報発信を行ってきました。しかし、パソコン、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などの普及やインターネット環境の整備が進んだことにより、多くの人が様々な情報をリアルタイムに入手できる時代となってきました。花粉飛散の情報もより正確で早い情報提供が要求されており、そこで花粉症対策委員会では本年よりウェザーニューズ社の提供する花粉プロジェクトに参加することにより、スギ花粉量などを測定できるポールンロボを県内各地に計画配置することとしました。この機器はリアルタイムにスギ花粉の飛散状況をモニタリングし、1時間毎にインターネットにて飛散数を確認することが可能で、県医師会ホームページよりリンク可能な状況にして、リアルタイムな情報提供を始めました。この情報は一般の県民の皆様にも無料で閲覧可能であり、従来の方法

では早くても1日後の報告となっていた飛散状況が、当日の行動に反映できるような、より有用な情報の提供になるものと考えています。平成27年も本年同様県内各地にポールンロボを設置し、情報提供を行う予定にしております。

さて平成27年のスギ花粉飛散数ですが、前年の夏の気候に左右されることかがわかっており、本年の夏の日照時間、気温、降水量などから平年の2500個を上回り、4000~5000個程度の飛散が予想されます。

スギ花粉症は有病率が50%を超える都道府県があるなど増加の一途を辿っています。富山県ではそこまで有病率が高くはありませんが、増加傾向にあります。さらに鼻汁・鼻閉やそれに伴う睡眠障害など各種症状により労働作業効率に著しい悪影響を与え、その経済的損失は他のどの疾患よりも高いとの試算も出されています。今後も県民の皆様により有用な情報を提供できるようにしていく方針です。